

GEMITS アライアンスパートナーズ 第4回理事会

2012年3月11日

配布資料

資料1 議事次第

資料2 平成 23 年度活動中間報告

資料3 平成 23 年度収支中間報告

資料4 地域医療連携運営ワーキンググループの活動中間報告

資料5 「市民フォーラム」のパンフレット・アンケート

資料6 「国際モダンホスピタルショー 2012」資料

(以上)

GEMITS アライアンスパートナーズ 第4回理事会

2012年3月11日 12:30－
東京商工会議所

議事次第

I. 審議事項

なし

II. 報告事項

1. 平成 23 年度活動中間報告
2. 平成 23 年度収支中間報告
3. 地域医療連携運営ワーキンググループの活動中間報告
4. その他

(以上)

1. まえがき

本会のこれまでの活動について報告する。

2. 活動内容

7 月 6 日に開催された設立総会において承認された今年度の事業計画に基づき、普及啓発活動、技術的・専門的課題の検討及び広報活動を展開している。これらについて記す。

(1) 普及啓発活動

GEMITS の考え方を普及啓発するため、小倉会長が各所で講演やセミナーを実施しているが、それらの実績を下表に記す。

表 1. GEMITS に関する小倉会長の講演・セミナー

項	テーマ	開催日	場所	参加人数	記事
1	救急災害医療の全体最適化 — GEMITS が拓く新しい世界 —	2011 年 6 月 3 日	札幌コンベンションセンター（北海道札幌市）	約 230 名	第14回日本臨床医救急学会総会・学術集会 ランチョンセミナー
2	救急医療の全体最適化	2011 年 7 月 30 日	ノボテル甲子園（兵庫県西宮市）	約 300 名	第11回地域医療懇談会
3	復興における医療 IT の役割と将来 — 平時から災害復興まで使える医療情報システム —	2011 年 9 月 10 日	瑞穂市総合センター サンシャインホール（岐阜県瑞穂市）	約 900 名	朝日大学公開講座「復興と新しい日本の創造」
4	救急医療の全体最適化を目指して	2011 年 9 月 21 日	佐賀市マリトピア（佐賀県佐賀市）	約100名	佐賀県循環器ネットワーク 第 3 回佐賀県循環器診療ネットワーク研究会
5	医師と患者との最適化を目指して	2011 年 10 月 26 号	—	—	東京法令出版株式会社 救命救急
6	「救急医療の全体最適化」のために情報の一元管理支援シ	2011 年 10 月 Vol. 9	—	—	株式会社ベネシス ホスピタルビュー

	システム“GEMITS”を構築				
7	救急医療の全体最適化を担うシステム GEMITS	2011 年 10 月 11 号	—	—	株式会社プラネット 救急医療ジャーナル
8	医療の全体最適を行うための医療情報連携—日本版 EHR を含めて—	2011 年 10 月 7 日	日本マイクロソフト(株)品川本社 (東京都港区)	約 30 名	病院 CIO 研究会
9	救急医療の全体最適化	2011 年 10 月 8 日	熊本全日空ホテル(熊本県熊本市)	約 150 名	熊本県医師会 救急医療講演会
10	救急医療の全体最適化	2011 年 10 月 14 日	ホテル八丁堀シャンテ (広島県広島市)	約 200 名	味の素製薬株式会社 広島麻酔セミナー
11	救急医療を支援するテクノロジーとコミュニケーション	2011 年 10 月 20 日	東京新宿京王プラザホテル(東京都新宿区)	約 150 名	日本救急医学会総会・ 学術集会
12	医療の全体最適化を支援する情報基盤	2011 年 10 月 25 日	日本工業倶楽部(東京都千代田区)	約 30 名	経済同友会「国家情報基盤改革委員会」
13	医療情報連携システム GEMITS を基盤とした ICT による緊急介護支援	2011 年 10 月 28 日	岐阜グランドホテル(岐阜県岐阜市)	約 400 名	全国地域情報化推進 セミナー2011 in 岐阜
14	救急・災害医療の全体最適化	2011 年 11 月 2 日	ホテルキャッスル山形 (山形県山形市)	約 200 名	第 25 回東北救急医学会・CSL ベーリング株式会社 東北救急医学会
15	災害から生き残るために—医療情報の重要性—	2011 年 12 月 3 日	岐阜赤十字病院(岐阜県岐阜市)	約 150 名	岐阜赤十字病院 第 19 回岐阜赤十字病院市民公開講座
16	わが国の災害医学分野における昨今の課題と現状	2011 年 12 月 8 日	岐阜グランドホテル(岐	約 50 名	岐阜県病院協会 病院協会創立 60 周年記

			阜 県 岐 阜 市)		念講演
17	平時から災害時に耐え得る医療	2012年 1月26日	全国家電会館(東京都文京区)	約30名	「情報通信を活用した震災に強い国づくり」研究会 第5回「医療IT/電子行政(国民ID・番号制度)」
18	岐阜県における ICT を活用した救急・災害医療について	2012年 1月31日	メルパルク名古屋(愛知県名古屋市)	約180名	東海総合通信局 ICT利活用普及セミナー
19	救急医療の全体最適化	2012年 2月2日	ロワジールホテル大垣(岐阜県大垣市)	約120名	塩野義製薬(株) 西濃救急医療講演会
20	革新への挑戦～日本の技術が医療を変える～(パネラー)	2012年 2月12日	東商ホール(東京都千代田区)	約300名	内閣官房医療イノベーション推進室 医療イノベーション推進シンポジウム
21	市民フォーラム「平時から災害時に耐え得る医療を目指して」	2012年 3月11日	東商ホール(東京都千代田区)	約200名	GEMAP 主催

(2) 技術的・専門的課題の検討

技術的・専門的課題については、9月12日に開催された第2回理事会において、GEMITSの全国展開の加速を目的として、GEMITSを他自治体に適用するにあたっての、①運営ルール、②システム、③運用方法の3課題を検討する地域医療連携運営ワーキンググループの設置が承認され、11月25日に第1回目の会議が開催された。これまでに4回の会議を開催し、救急医療に関する課題を抽出した後、GEMITSによる解決案の策定に向けて積極的な活動を展開している。

(3) 広報活動

5月26日、Learning Square 新橋(東京都港区)において、本会の設立記者説明会を開催した。そこでは、小倉会長がGEMITSプロジェクトの概要について、安田副会長がGEMAP設立の経緯について説明した。9社16名のメディアが参加し、説明後の質疑応答ではGEMITSやGEMAPに関する質問が活発に行われた。

上記の記者説明会の他にも、取材を受ける等してメディアに取り上げられている。それを以下に列挙する。

- ① 『「救急医療に向けた情報流通の仕組みを“全国区”に』、GEMITSの拡大に向けたアライアンスが発足』(Tech-On!、2011年5月26日)

<http://techon.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20110526/192160/>

- ② 「患者情報共有システム普及、新団体を設立へ」(日テレ NEWS 24、2011 年 5 月 27 日)
<http://www.news24.jp/articles/2011/05/27/07183455.html>
- ③ 「救急医療の現場が開発した『GEMITS』 - ICT を活用し、短時間での決断を支援 -」(日経エレクトロニクス、NE セミナー 次世代医療機器サミット 第 1 回、2011 年 6 月 27 日)
- ④ 「救急医療、IT活用進化 救命率の向上に」(日本経済新聞、2011 年 6 月 30 日)
- ⑤ 「物言えぬ患者の代理人となる医療カード『MEDICA』」(Tech Target ジャパン、2011 年 7 月 20 日)
<http://techtarget.itmedia.co.jp/tt/news/1107/20/news05.html>
- ⑥ 「救急医療を効率化するIT活用プロジェクト『GEMITS』」(Tech Target ジャパン、2011 年 8 月 3 日)
<http://techtarget.itmedia.co.jp/tt/news/1108/03/news01.html>
- ⑦ 「医療 IT は新規性ではなく、現行技術をいかに利用するかが重要」(デジタルヘルス Online、2011 年 8 月 17 日)
<http://www.nikkeibp.co.jp/article/dho/20110817/280988/>
- ⑧ 「医療改革で社会を元気に」(日経コンピューター、2011 年 10 月第 793 号)
- ⑨ 「救急医療の現状と課題・そして展望」(日経ラジオ「総合メディカルマネジメント」、2012 年 2 月 16 日、23 日 放送)

なお、本会が設立された翌日からホームページを立ち上げており、組織と運営、規約類、会員一覧等についての情報を会員に提供している。URL は以下の通りである。

<http://gemap.jp/>

ワーキンググループ活動を含め、本会の活動が本格化し始めており、情報発信等にこの HP を積極的に活用していく。その方針に従い、3 月 11 日に東京商工会議所(東京都千代田区)で開催する市民フォーラム「平時から災害時に耐え得る医療を目指して」の参加申込みをこの HP で行えるようにしている。申込みは、PC、スマートフォンおよび携帯電話のいずれからでも可能である。

3. 会員

前回より、幹事会員が 1 社、特別会員が 1 名増加し、現在の会員数は、幹事会員：7 社、正会員：7 社、賛助会員：4 社、特別会員：7 名 である。

4. その他

岐阜県内の二次医療圏を超えた地域連携ネットワークの構築を推進して、将来の情報連携の範囲拡大と県下のシームレスな医療連携ネットワークの一層の効率化を図ることを目的として、2011 年 8 月 17 日に岐阜県内の行政・消防・医師会・病院から構成される救急医療情報連携地域協議会が設立された。その事務局は、GEMITS の展開という点で、本会と密接な関係を有する特定非営利法人岐阜救急災害医療研究開発機構が務めている。地域医療連携運営ワーキングの活動とも大いに関係するため、同協議会の動向把握に努めている。

(以上)

(単位:円)

科目・摘要	予算額(A)	実績 (2/29現在)	見込み額(B)	(C)=(A)-(B)	記事
I 事業活動収支の部					
1 事業活動収入					
(1) 会費収入	4,600,000	4,980,000	4,980,000	-380,000	
① 幹事会員 @500,000×5社	2,500,000	3,500,000	3,500,000		
② 正会員 @200,000×10社	2,000,000	1,400,000	1,400,000		
③ 賛助会員 @20,000×5社	100,000	80,000	80,000		
(2) 事業収入	100,000	0	0	100,000	
① セミナー等事業収入	100,000		0		
(3) 寄附金収入	100,000	0	0	100,000	
① 寄附金収入	100,000		0		
(4) 雑収入	500	32	500	0	
① 受取利息	500	32	500		
事業活動収入計	4,800,500	4,980,032	4,980,500	-180,000	
2 事業活動支出					
(1) 事業費支出	2,100,000	1,254,520	2,122,769	-22,769	
① 普及活動事業費	2,000,000	1,254,520	2,122,769		
② ワーキンググループ活動費	100,000		0		
(2) 管理費支出	2,665,000	1,386,351	2,053,410	611,590	
① 会議費	300,000	167,790	167,790		
② 総会運営費	500,000	330,600	330,600		
③ 旅費交通費	100,000	23,900	100,000		
④ 通信運搬費	30,000	4,660	12,780		
⑤ 消耗品費	120,000	69,285	98,907		
⑥ 印刷製本費	80,000		80,000		
⑦ 諸謝金	300,000	111,111	383,333		
⑧ 租税公課	5,000		0		
⑨ 業務委託費	600,000	450,000	600,000		
⑩ ホームページ開発・維持費	600,000	225,750	250,000		
⑪ 雑費	30,000	3,255	30,000		
事業活動支出計	4,765,000	2,640,871	4,176,179	588,821	
事業活動収支差額	35,500	2,339,161	804,321	-768,821	
II 投資活動収支の部					
1 投資活動収入					
投資活動収入計	0				
2 投資活動支出					
(1) 固定資産取得支出	0				
投資活動支出計	0				
投資活動収支差額	0				
III 財務活動収支の部					
1 財務活動収入					
(1) 借入金収入	0				
財務活動収入計	0				
2 財務活動支出					
財務活動支出計	0				
財務活動収支差額	0				
IV 予備費支出					
当期収支差額	35,500				
前期繰越収支差額	0				
次期繰越収支差額	35,500				

(注) 収支予算書に係る注記事項

1. 借入金限度額

許容される借入金の最高限度額 : 0円

2. 債務負担額

許容される債務負担の最高限度額 : 0円

[2011年度 GEMITS アライアンスパートナーズ 第4回理事会]

2012年3月11日

地域医療連携運営ワーキンググループ 報告

【第2回の会議開催】

1. 日時：2011年12月19日（月） 16:00～17:30
2. 場所：沖電気工業株式会社 本社 3階 応接室3
3. 出席者：丸山事務局長、小川（沖）、北原（パケモ）、黒澤（日本光電）、上甲（沖）、白木（トーカイ）、田中（3M）、百名（NTT データ）、三田村（NTT データ）
（敬称略）
4. 会議内容
 - (1) 北九州市消防本部訪問報告
 - ・機能別応需に仕組みが確立、非常に良好な事例、軽症患者割合 30%
 - (2) 救急医療に関する課題整理
 - ・各社より救急医療に関する課題の抽出
 - (3) 実証事業の紹介
 - ・昨年度の厚労省実証事業（フィールド：奈良県、愛知県）の紹介

【第3回の会議開催】

1. 日時：2012年1月26日（木） 16:00～18:15
2. 場所：沖電気工業株式会社 ビジネスセンター 5号館 5109会議室
3. 出席者：丸山事務局長、小川（沖）、北原（パケモ）、上甲（沖）、白木（トーカイ）、百名（NTT データ）、三田村（NTT データ）
（敬称略）
4. 会議内容
 - (1) 実証事業の紹介
 - ・昨年度厚労省実証事業の奈良県にて実施した病院情報収集システムの実証実験結果の紹介
 - (2) 救急医療に関する課題整理
 - ・前回抽出した課題に対し、①搬送機関②医療機関③共通の軸と、(a)運用面 (b) I T 導入面の軸に分類し整理を実施。
 - (3) 救急搬送に関する報道資料の紹介
 - ・H22年度救急搬送における医療機関の受入状況実態調査（総務省消防庁）の紹介
 - (4) 総務省への提案の実証実験案件の説明
 - ・ICカード情報連携基盤を提供する実証実験の説明

【第4回の会議開催】

1. 日時：2012年2月20日（月） 13:30～15:00
2. 場所：株式会社トーカイ 本社ビル14階会議室
3. 出席者：丸山事務局長、西尾氏、小川（沖）、北原（パケモ）、黒澤（日本光電）、上甲（沖）、白木（トーカイ）、谷口（トーカイ）、百名（NTT データ）、三田村（NTT データ）
（敬称略）
4. 会議内容
 - (1) 救急医療に関する課題整理
 - ・ 課題を分類し整理した内容をもとに課題解決のシステム化案の提示。
 - (2) 総務省に提案する実証実験案件
 - ・ H22年度救急搬送における医療機関の受入状況実態調査（総務省消防庁）の紹介
 - (3) G E M I T S 救急搬送に関するビデオの紹介

【次回（第5回）の会議開催予定】

1. 日時：2012年3月27日（火） 15:00～
2. 場所：沖電気工業株式会社 ビジネスセンター 5号館会議室
3. 会議内容
 - (1) 救急医療に関する課題整理
 - (2) 総務省に提案する実証実験案件

救急搬送における課題		解決する方向性	システム解決案
①	救急活動中は時間がなく、システムを触るのが困難	救急の現場で操作し易い機器の導入	タブレット端末等の導入
②	端末操作をすることが患者家族から疑念の目	携帯電話にて遊んでいるように思われたい見栄え	タブレット端末等の導入
③	救急活動中のシステム活用に消極的(救急活動が終わったあとの事後報告などのシステムは積極的に利用)	事後でも入力可能な方法(仕組み)の必要性	事業入力機能
④	患者のバイタル情報等を予め医療機関に通知しておく手段が未整備。	救急現場から患者の情報を医療機関に伝送する仕組みの必要性	バイタル、画像伝送の導入
⑤	複数の病院のシステムに対する思いの調整が困難	病院間にて情報を共有する仕組み	医療機関間での情報共有機能
⑥	情報入力が困難(時間的、人的)	入力のし易さ(操作性)と入力情報量の整備	タブレット端末等の導入
⑦	医療機関間での情報共有がなく、自病院のみの判断	病院間にて情報を共有する仕組み	医療機関間での情報共有機能
⑧	患者の画像情報などに対して、個人情報保護法での適切な対応の理解が不十分	個人情報保護に関する適切な仕組みの導入	セキュリティ関連機能の導入
⑨	継続的な事業運営費用の確保が困難	-	-
⑩	人口規模の少ない地域での利用率が低いのは・人材・資源の制約(特に人口の少ない地域)	- (現場のケース調査)	-
⑪	平時の救急時のみでなく、災害時における人材・資源の制約が顕著	災害時におけるシステムの活用	災害時の適切な情報共有システムの導入
⑫	医師主導と、救急隊主導のギャップ(差異)	- (現場のケース調査)	-
⑬	搬送先の病院が固定的	- (現場のケース調査)	-
⑭	既存システムとの棲み分けが困難	- (現場のケース調査)	-
A	救急隊によるトリアージの仕組み、ディスパッチセンター機能の確立	現場にてトリアージをする仕組みの導入 情報を集約し、適切に搬送する仕組みの導入	救急現場でトリアージシステムの導入 コーディネーター機能の導入
B	病院への受入要請を行う回数と、病院に搬送し処置開始時間を総合的に減らすことが課題	搬送に関する総合的な仕組みの導入	総合的な救急情報システムの導入
C	・一次・二次にて受入可能な患者が三次病院に搬送され、三次に集中	現場にてトリアージをする仕組みの導入 情報を集約し、適切に搬送する仕組みの導入	救急現場でトリアージシステムの導入 コーディネーター機能の導入
D	・検査機器や手術の準備などは患者が到着してから行っているため、処置を開始するまでには一定の時間が必要	救急現場から患者の情報を医療機関に伝送する仕組みの必要性	バイタル、画像伝送の導入
E	・救急搬送と患者の予後の情報が紐付けされておらず、搬送結果の知見が不十分	救急搬送時の情報と搬送結果の付き合わせる仕組みの導入	搬送の関する分析システムの導入

GEMITSアライアンスパートナーズ(GEMAP)

設立趣意

謹啓 貴台におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、私どもは救急医療の全面最適化を推進するための総務省、経済産業省の実証事業における成果を踏まえ、ここで構築検証されたプラットフォームを全国展開するための啓蒙活動、情報支援などを積極的に展開するためのコンソーシアムを設立することとなりました。

地域における救急医療のさまざまな問題を解決するプラットフォームとして利活用いただき、安心・安全な地域貢献を目指してまいります。

つきましては、GEMITSアライアンスパートナーズ設立の趣旨にご賛同いただき、関係の方々のご参加ならびに多大なご支援・ご協力をお願い申し上げます。

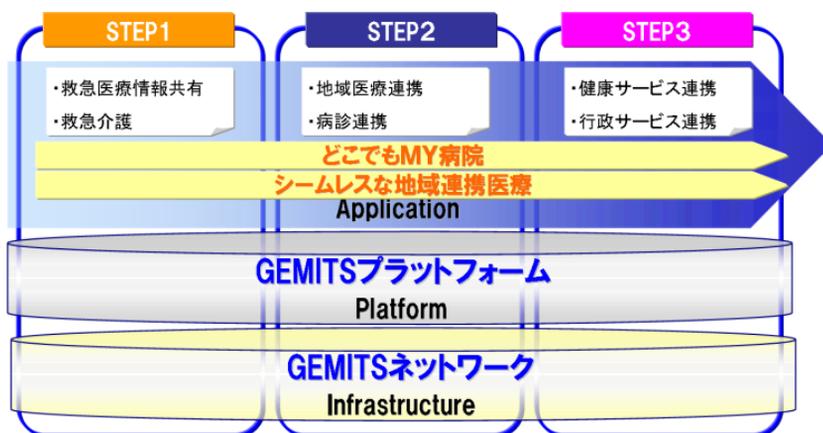
概要

世界に類のない高齢化社会が進む中、我が国におきましては、医療崩壊が社会問題化されて久しく、一刻の猶予もない状況です。GEMITSアライアンスパートナーズは、救急医療に対し、全体最適化を図っているGEMITS(Global Emergency Medical supporting Intelligent Transport System)の構築と、各地域に存在する医療・健康情報のシステムとのオープンな連携を目指すと共に、市民をはじめ、医療・健康機関が利活用できるアプリケーションの整備・推進を行います。

また、普及・促進に向け、GEMITSのプラットフォームを活用して、運用や実証にお役立ていただけます。

GEMITSアライアンスパートナーズは、活動を通じて、医療崩壊を改善すると共に、新たな生活環境を整備し、地域の安心な街づくりに貢献します。

GEMITSが目指す姿



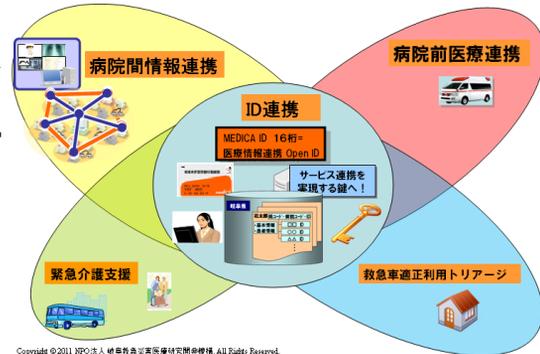
目的

1. 医療崩壊を改善するための、情報技術開示によるオープンな連携の促進
2. 地域医療の体制に対する、GEMITS情報の提供、及び、提言による全体最適化とシームレス化の実現
3. 救急医療にとって重要な患者固有の医療情報に対する、市民による安全な利活用の実現
4. 関連する団体・機関等、官民連携による医療・健康安心地域の構築

GEMITSとは

GEMITSとは、救急医療における全体最適化である、「Right patient to the right hospital」を基本理念とし、岐阜大学を中心とした産学連携事業体が、国の事業との連携を図り、救急医療体制支援システムを構築するプロジェクトです。

目的は、現在困難な状況にある救急医療体制を、医療資源の育成、最適化利用を図ることで、再生できることを実証し、本邦の救急医療体制のロールモデルとして全国に展開することです。

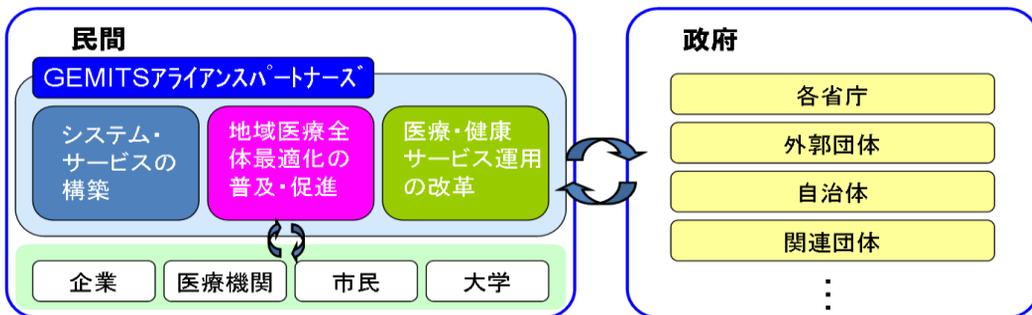


事業計画

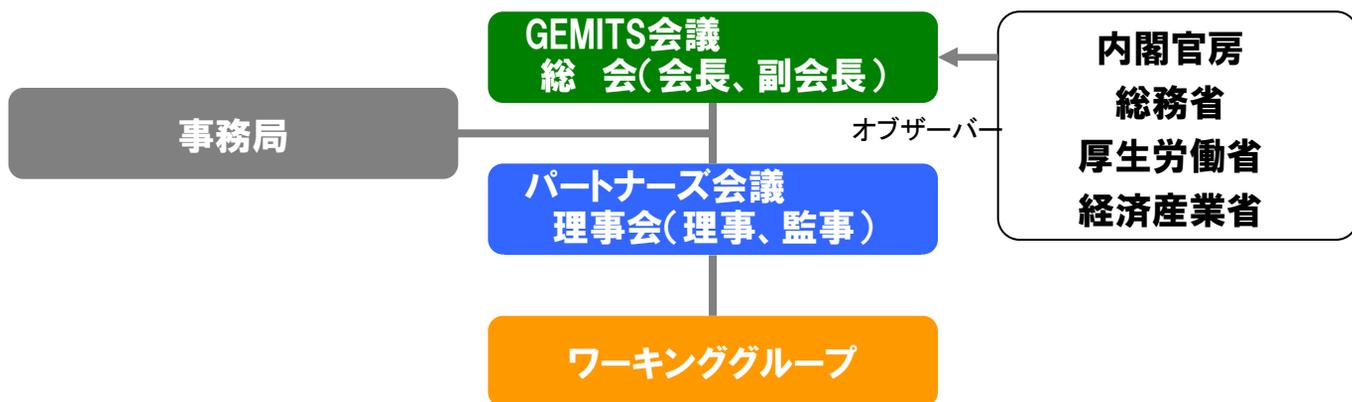
GEMITSとして培ってきた、地域医療における救急・災害時に役立つ、経験やノウハウ、技術を具現化し、セミナーやシンポジウムを通して、それぞれの地域にあった姿を提言して参ります。

また、民間の意見を集約し、関連省庁へのご提案、意見交換を実施して、実現を目指します。

1. GEMITSの拡大・拡充、及び患者固有の医療情報の迅速・的確な利活用システム構築への支援
2. GEMITSの情報技術の開示、及び普及・促進
3. 地域医療体制や運用に向けた、GEMITSに関する情報提供・提言
4. 関連する団体・機関などへの情報共有と集約



体制



参加団体

幹事会員

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
 沖電気工業株式会社
 株式会社デンソー
 トヨタ自動車株式会社
 日本光電工業株式会社
 東レ・メディカル株式会社
 株式会社 ゼンリン

正会員

株式会社トーカイ
 デジタルヘルスOnline(日経BP社)
 株式会社中広
 株式会社ジェムシス
 株式会社パケモ
 株式会社ソリトンシステムズ
 タック株式会社

賛助会員

ハヤックス株式会社
 住友スリーエム株式会社
 大垣共立銀行
 Mologic 株式会社

特別会員

時津 直樹
 (インターネットITS協議会)
 山田 英脩
 (税理士法人 戸田会計)
 小林 啓二
 (JAXA 宇宙航空研究開発機構)
 橋本 雄太郎
 (杏林大学総合政策学部 教授)
 野口 英一
 (東京防災救急協会)
 青木 則明
 (NPO法人 ヘルスサービスR&Dセンター)
 小野 古志郎
 (財団法人 日本自動車研究所)

平時から災害時に耐え得る 医療を目指して

～病院前から病院内まで情報通信技術が支援する～

○プログラム

14:00～14:15 来賓紹介

佐藤 文俊 氏（総務省政策統括官）

有倉 陽司 氏（内閣官房情報通信技術担当室 内閣参事官）

14:15～14:45 基調講演

小倉 真治 氏（岐阜大学大学院医学系研究科教授、GEMAP会長）

14:45～16:30 パネルディスカッション

「災害時を想定した医療のあり方」

コーディネータ：小倉 真治 氏

パネリスト（五十音順）

有賀 徹 氏（昭和大学医学部教授）

田中 博 氏（東京医科歯科大学大学院疾患生命科学部教授）

富永 悌二 氏（東北大学大学院医学系研究科教授）

野口 英一 氏（公益財団法人東京防災救急協会専務理事）

◎日時 2012年 3月11日（日） 14:00～16:30 （開場13:30）

◎場所 東京商工会議所 東商ホール （東京都千代田区丸の内3-2-2）

主 催：GEMITSアライアンスパートナーズ（GEMAP）
後 援：デジタルヘルスOnline（日経BP社） 電子情報通信学会
日本医療機器産業連合会 日本医療器材工業会





小倉 真治 おぐら しんじ

岐阜大学大学院医学系研究科 救急・災害医学教授

昭和34年2月14日生まれ。

岐阜大学大学院医学系研究科救急・災害医学教授、
同大学医学部附属病院高次救命治療センター長。
岐阜大学医学部卒業後、米国サウスカロライナ医学大学客員研究員を経て香川医科大学附属病院
救急部教授となり2003年より現職。
日本救急医学会指導医、専門医。
専門分野:救急医療情報システム、救急医療体制ほか。



有賀 徹 あるが とおる

昭和大学医学部教授・日本救急医学会理事長

昭和25年9月8日生まれ。

昭和51年	東京大学医学部医学科卒業
昭和59年	公立昭和病院脳神経外科主任医長
平成2年	公立昭和病院救急部長
平成6年	昭和大学医学部教授（現在に至る）
平成9年	昭和大学医学部救急医学講座主任（現在に至る）
平成9年	昭和大学病院救命救急センター長
平成23年	昭和大学病院長・学校法人昭和大学理事（現在に至る）
■ 役 歴	日本救急医学会理事（代表理事代行・庶務担当） 日本臨床救急医学会代表理事 など



田中 博 たなか ひろし

東京医科歯科大学大学院 教授

1949年9月15日生まれ。東京医科歯科大学大学院生命情報科学教育部・疾患生命科学研究所 教授。

■ 学 歴	1981年	東京大学医学系大学院博士課程修了 医学博士
	1983年	東京大学工学系大学院より 工学博士
	1987年	浜松医科大学 医学部附属病院 医療情報部 助教授
	1990年	米国マサチューセッツ工科大学 客員研究員
	1991年	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 生命情報学 教授
	1995年	東京医科歯科大学 情報医科学センター センター長 併任
	2003年～	東京医科歯科大学大学院 疾患生命科学研究所教授へ異動
	2006年～2010年	東京医科歯科大学大学院 生命情報科学教育部教育部長・大学評議員併任



富永 悌二 とみなが ていじ

東北大学大学院医学系研究科 神経外科学教授

昭和32年7月3日生まれ、福島県出身。

■ 学 歴	昭和51年 4月	東北大学医学部入学
	昭和57年 3月	東北大学医学部卒業
■ 職 歴	昭和62年 2月	米国フィラデルフィア生体膜研究所留学
	平成 5年 4月～9月	米国ハロー神経学研究所留学
	平成 9年 9月	広南病院脳神経外科副科長
	平成12年 3月	広南病院脳神経外科部長
	平成14年 4月	東北大学医学部臨床助教授
	平成15年 5月 1日	東北大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経外科学分野 教授



野口 英一 のぐち えいいち

東京防災救急協会 専務理事

1950年11月21日生まれ。

1975年	東京消防庁 入庁 臨港消防署長 参事兼警防課長 第九消防方面本部長 第二消防方面本部長 救急部長
2010年	公益財団法人 東京防災救急協会 専務理事（救急事業担当）
2011年	国士舘大学防災・救急救助研究所 客員研究員

「ICTで拓く医療連携の未来」

<国際モダンホスピタルショーについて>

国際モダンホスピタルショー 2012 は、1974 年開催以来、社団法人日本病院会および一般社団法人日本経営協会が主催する 39 回目を迎える保健・医療・福祉に関するわが国最大規模の総合展示会です。今年は昨年を引き続き、「いのちの輝きを！未来を創る健康・医療・福祉～さらなる連携を目指して～」をテーマとして開催いたします。

会期：2012 年 7 月 18 日(水)～20 日(金)

会場：東京ビッグサイト 東展示棟

<企画展示について>

ホスピタルショーでは、毎年、主催者の提案として、医療従事者にとっての今日的課題をテーマとした企画展示を実施し来場者の高い関心を得ています。今年は、ホスピタルショー委員会（委員長 日本大学医学部 客員教授／社会保険横浜中央病院 病院長 大道 久先生）の医療情報部会（部会長 昭和大学医学部 乳腺外科 教授 中村 清吾先生）主催の企画展示を実施します。

<主催者企画展示 趣旨>

医師不足や地域での医療偏在などが大きな問題となっている現在、急速な進化を続けている ICT（Information & Communication Technology：情報通信技術）の活用による解決が求められています。

ICT 活用により医療情報の共有が可能となることで、病院や診療所、介護施設などの施設間連携や医師、看護師、薬剤師等の多職種間連携がより向上し、さまざまな問題の改善や安心の医療につながります。

また、システム・ネットワークの高度化は、同時に QOL 向上という「より良い医療のあり方」の後押しをしていくものと考えます。

そこで、今回の主催者企画展示では、最先端のネットワークやアプリケーション、医療機器、モバイル端末等を活用し、地域医療連携や救急医療支援などの医療向上を推進している取組みをパネル・デモ展示で来場者の方々に紹介したいと思えます。

<<展示内容案>>

- 検査データや連携パスなど、診療情報等を共有する医療連携システム・ネットワーク
- 在宅医療における複数医師での共同診療ネットワーク
- 患者自身が診療情報を管理することができるデータベースシステム
- クラウドコンピューティングを使用した医療・健康情報共有システム
- 救急車からの患者情報を活用した救急医療支援システム
- モバイル機器(スマートフォン・タブレット端末など)を活用した各種システム
- その他

【事務局】 一般社団法人 日本経営協会 ホスピタルショー事務局

〒151-8538 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-11-8

TEL：03-3403-8615 FAX：03-5413-4327

担当：緒方 晋也 E-mail：sogata@noma.or.jp

公式ホームページ ⇒ <http://www.noma.or.jp/hs/>

平成24年2月13日

岐阜大学大学院医学系研究科
救急・災害医学教授
小倉 真治 先生

一般社団法人日本経営協会
ホスピタルショウ事務局

「国際モダンホスピタルショウ 2012」主催者企画展示

ご協力をお願い

拝啓 貴院ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本会は(社)日本病院会と共催で、医療関係者向けの展示会「国際モダンホスピタルショウ 2012」を東京ビッグサイト東1・2・3ホールにおいて、7月18日から3日間、開催いたします。

「国際モダンホスピタルショウ」では、毎回、主催者企画として時宜に適ったテーマを取り上げ、先進事例をパネル展示や実演、プレゼンステージ等で来場者にご紹介する「主催者企画展示」を設営しています。

今回の主催者展示は、「ICTで拓く医療連携の未来」と題しまして、最先端のネットワークやアプリケーション、医療機器、モバイル端末等のICTを活用し、地域医療連携や救急医療支援などの医療向上を推進している事例をパネル・製品展示にて展開したいと考えております。

つきましては、「ICTで拓く医療連携の未来」の展示協力をお願い申し上げます。

敬 具

記

名 称：国際モダンホスピタルショウ2012 主催者企画展示
「ICTで拓く医療連携の未来」

主 催：社団法人日本病院会 / 一般社団法人日本経営協会

会 期：2012年7月18日(水)～20日(金)

開場時間：午前10時00分～午後5時00分

会 場：東京都江東区有明3-11-1

東京国際展示場(東京ビッグサイト)東展示棟1～3ホール内
医療情報システムゾーン

来場対象：医療・福祉従事者、行政・自治体関係者、医療事業企業関係者等

入 場：無料(原則として招待券持参者のみ)

ホスピタルショウ公式ホームページ → <http://www.noma.or.jp/hs/>

■ 紹介パネル展示

※ パネルはA1サイズ 壁面貼付け

■ 実物展示・実演

※ 出展方法(搬入先・日程等)は別途、ご案内いたします。

◇ 展示に関する費用：

主催者企画につき出展料等は不要ですが、展示いただく機器等のご用意・搬入出等の実費につきましては、ご協力いただく各企業・団体様にご負担いただくというようお願い申し上げます。

以 上

担当：一般社団法人 日本経営協会 ホスピタルショウ事務局 緒方 晋也
TEL03-3403-8615 FAX03-5413-4327
E-mail : sogata@noma.or.jp

スマートデバイスとクラウド型地域連携システム 「EIRI」が拓く未来型在宅医療

協力：医療法人社団プリタナス / (株)メテイウェア ソフトバンクテレコム(株) / (有)ライトハウス

在宅医療における医療と介護を統合した地域連携

医療介護連携で共有すべき情報とは
 基本情報 身体状態 治療情報 サービス提供情報
 生活情報 介護状態 バイタル 診療/ケア記録

医療介護連携で共有すべき情報とは
 診療/ケア記録 日々の診療/ケア記録の共有が必須

地域に医療者共有
 地域に介護者共有

クラウド上に多職種全員で記録、共有
 医療法人社団プリタナス
 校新門アーククリニック

「地域医療連携支援システム」
 EIRI (E-I-R-I)
<https://www.air-node.com>

iPhone / Android / PC
 03-6361-7721
 03-6361-8188
 03-6361-8189
 03-6361-8190
 03-6361-8191

「EIRI」は、医療機関と介護施設の間で、患者様の情報を共有し、連携を促進するためのシステムです。

「EIRI」は、医療機関と介護施設の間で、患者様の情報を共有し、連携を促進するためのシステムです。

連携のメリット

- 患者様の情報を共有し、連携を促進する
- 医療機関と介護施設の間で、患者様の情報を共有し、連携を促進する
- 医療機関と介護施設の間で、患者様の情報を共有し、連携を促進する

連携のデメリット

- 医療機関と介護施設の間で、患者様の情報を共有し、連携を促進する
- 医療機関と介護施設の間で、患者様の情報を共有し、連携を促進する
- 医療機関と介護施設の間で、患者様の情報を共有し、連携を促進する





さらなる連携を目指してITソリューションショー

スポット展示

東6

BRAINS
COMPUTER

株式会社 東6
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-5561-1111



iPadを活用した住民の命をつなぐ社会システム「99さがネット」

協力：佐賀県 / 国際総業(株)

